

# 岡崎敬語「丁寧さ」の変化

## Change of “politeness level” in Okazaki

(Ver. 1.1)

国立国語研究所  
National Institute for Japanese Language and Linguistics

日本語の大規模経年調査に関する総合的研究  
Comprehensive Research  
Based on Large-Scale, Long-Term Studies of Japanese

井上史雄 ・ 松田謙次郎 ・ 柳村裕  
INOUE Fumio, MATSUDA Kenjiro, YANAGIMURA Yuu

平成 26 年 1 月  
January 2014

# 目 次

## まえがき

- 概要
- 作業手順
- グラフの見方
- グラフから読み取れることの概要
- ラベル付き散布図の見方
- 場面別の絶対年代移動法グラフの見方
- 性別・学歴別の散布図の見方
- 今後の分析手順
- 参考文献

## グラフ

- 図 1 11 場面全体 場面ごと調査次
- 図 2 11 場面全体 調査次ごと年代
- 図 3～4 場面別調査次ごと年代
- 図 5～7 性別、学歴別

## まえがき

### 概要

この報告は、国立国語研究所がこれまで半世紀以上にわたって継続した岡崎敬語調査に関する資料集である。「日本語の大規模経年調査に関する総合的研究」として、岡崎敬語調査全体を分析することになった。場面別の回答文は、本来の敬語の研究に使う以外に、長い談話の断片として、多面的に分析できる。

資料集の2として、本来のテーマだった敬語の「丁寧さ」のレベルについて、基礎的な資料をグラフの形で提示する。

「丁寧さ」は、第1次と第2次の調査報告の中心テーマだった。半世紀以上を経た第3次調査の結果を入れることによって、敬語の大きな変化傾向を把握することができた。丁寧さは、過去の報告書では、3段階、5段階に分けて分析された。この資料集では、松田謙次郎による第3次調査の3段階判定をそのまま利用した。ほぼ「ごぞいます体、ですます体、だ体」に相当する。「特別(御)

丁寧体、丁寧体、普通体」「最高敬体、敬体、常体」などとも呼ばれる。

これまで丁寧なものから1, 2, 3と数値化されていたので、グラフにするときは縦軸の値の大小を入れかえ、丁寧なものが上になるようにした。

松田はこのデータを主成分分析にかけて、国際会議で発表し、英語論文として公表した（松田 2012）。

この「岡崎敬語調査資料集2」のグラフは基礎データの提示にあたる。第1次から第2次にかけては、丁寧さが落ちる傾向が見られた。しかし、第3次の調査は、丁寧さが大幅に増加する傾向を見せた。また使い分けが、話し相手との身分・階層関係から、依頼関係の有無という個人間の心理に左右される傾向が読み取れた。性別と学歴による大きな違いも図示できた。

職業や生育地などの細かい属性との関連についてのグラフは、公開を後回しにする。その前にもっと多様な現象について、概要を把握することを優先する。

結果はグラフで示した。数表だと、変化パターンが読み取りにくいからである。具体的数値は後日インターネットで公開するので、興味のある人は検証できるし、さらに分析を進めることもできる。

## 作業手順

実際の作業は、以下の分担で行われた。松田謙次郎が判定を付けた。ほぼ「だ体」3点、「ですます体」2点、「ごぞいます体」1点である。その用例数の集計は、柳村裕による。個人ごとの平均点を集計した。EXCELによるグラフ作成も、柳村裕による。これらの基礎的集計によって、井上が解説を執筆し、関係者で検討した。

## グラフの見方

本報告では、「丁寧さ」に着目して、岡崎敬語データの概要を示すことに重点を置いた。グラフ全体の構成は以下のようである。

全体像提示（図1、2）

場面別（図3～4）

性別、学歴別（図5～7）

大部分の折れ線グラフでは、縦軸は使用率や使用度数を示し、横軸は年代、年齢、場面（質問文）などを示す。

図1～4の横軸は年代（生年絶対年代または3回の調査の時点）を示す。各年齢層の中央の年にプロットした。これまで10代の調査対象は一般の世論調査同様ハイティーンのみだが、20代以上と同じ10年間隔でプロットしていた。その後各年齢層の中央の値、平均年齢などによるグラフを作成して比較したが、視覚的に大きな違いの印象はなく、グラフの読み取りを間違える可能性は少な

い。また各調査の 30 代のマークを大きくした。後述のように成人後習得がある場合に、10 代も高年層も全体からずれた値をとることがあり、30 代が全体を代表しうると考えたからである。また 30 代の位置を手がかりにすると、第 1 次調査の P と C（後述）と第 2 次調査の線を判別しやすい。

### グラフから読み取れることの概要

「丁寧さ」の状況について、グラフ化したことにより、以下の様相が読み取れる。

まず図 1-1 では「丁寧さ」が全体として数十年にわたって増加しつつあることが示された。ただ第 1 次調査から第 2 次調査にかけては、一時減少する。後述のように、P (proper or professional)と C (control or college)の違いが問題になる。当時の学生は、やや乱暴な言い方を得たわけだが、都会から来た研究所員に対するよりも、地元の学生に対して、ふだんのことば（敬語）を答えた可能性を否定できない。P と C の人数はほぼ同等なので、第 1 次調査の数値を P と C の中間にプロットすると、第 2 次調査との違いがそれほど大きくなる。

図 1-2 では場面によって増加ぶりが違うことが分かる。医者場面では 3 回を通じて丁寧さが高い。荷物預けでは上昇ぶりが著しい。第 2 次調査で減るものが混じる。後掲の図 2 の散布図では、場面の相互関係が読み取りやすい。

図 2-1 では 3 回の調査結果を「生年による絶対年代移動法」で示した。丁寧さが場面全体として数十年にわたって増加しつつあることが示された。また場面によって使用率に大きな違いが見られた。第 1 次調査の報告書では P (proper or professional)しか扱っていないが、ここでは C (control or college)のデータも別の線で示した。第 3 次調査の結果が過去の調査と大きくずれることが分かった。

1940 年代前後に生まれた人たちは、(かつては若い世代として、第 3 次では高年層として) 2 度の調査の対象になったが、半世紀経って際立って丁寧さを増やしている。岡崎の「ていただく」をはじめとして敬語現象でも「成人後習得」late adoption が目立ったが、中心課題としての丁寧さでも認められた。これは同じ生年世代の実時間 real time による比較に基づく。一方、3 回の調査の 4 本の線すべてで、世代差という見かけの時間 apparent time で、中年層以上が丁寧で、若年層は乱暴またはぶっきらぼうという傾向が見られる。理論的射程の大きい現象である。なおこのパターンは、「岡崎敬語調査資料集 1」で扱った「ていただく」でも見られたし、文の長さ（字数）でも見られた。日本語の「丁寧」は、長いというニュアンスも含む。もっと多くの現象とともに、総合的分析を進める必要がある。

## ラベル付き散布図の見方

丁寧さについて、第3次調査で大きな変化があった。その性格を知るために第1次と第3次の調査結果を散布図の形で考察する。図2-2と図2-3は、図1-2の別表現である。第1次調査 P (proper or professional)のみと、第2次調査・第3次調査の結果を散布図の形で示した。3回の調査の結果を凡例と照合せずにラベルの付いた形で考察でき、各調査での場面配列の原理を探るには便利である。

図横軸が第1次、縦軸が第2次・第3次の数値である。丁寧な言い方が右上に位置するように、数値を逆転した。数値2の線は、単純な「ですます体」で、「あります」「すぐです」などの類である。それより上または右（少ない数値）は、もっと丁寧な言い方、下または左（多い数値）は、もっと乱暴な言い方である。

まず大きな傾向をつかむために、図2-3の第1次、第3次の散布図を見よう。対角線の左上は第3次調査で丁寧さが急増した場面である。特に荷物預けが目立つ。上方に位置するのは、第3次調査で丁寧さの大きい項目で、医者、荷物預けを筆頭に、相手に依頼する項目が多い。右下の丁寧さの減った項目は少ない。傘貸しが少し減っている。下半分に位置するのは自分が優位に立つ（または中立的な）場面である。左下は空白で、数値2の線より下にプロットされたのは傘貸しのみである。

グラフの横方向の固まりに着目すると第3次調査の使い分け原理が分かる。第3次調査では、話し手と相手との心理的優劣関係が、丁寧さの基準として働くようである。全体として丁寧さが増したと読み取れる。

これに対し第1次調査では、右に来る医者が飛び離れ、傘忘れ以下は単純な説明が難しい。

図2-2、第1次、第2次の散布図では、変化がそれほど大きくないので、これを手がかりに第1次、第2次の丁寧さの原理を探ろう。全体は3グループに分かれる。まず医者が右上に飛び離れ、左下の乱暴な言い方に道教えとおつりがある。他の場面はその中間である。相手との力関係(強い立場か弱い立場か)が影響すると読み取れる。その中で、傘忘れの丁寧さが第2次で落ちた。他の場面でも丁寧さが落ちた。

いずれにしろ第1次・第2次の間の場合差の変化は大きくなかった。両極端は、医者と言う社会的地位の高い人への依頼では丁寧さが上がり、道教え、おつりという相手より優位な立場で乱暴になる、と説明できる。荷物預け、振込用紙、傘忘れは、相手に依頼するまたは尋ねるという場面なので、やや丁寧な言い方になったと、説明できる。しかし第3次ほどには散らばりが大きくない。

図2-1に戻ると、第1次調査のPとCは違いがあり、第2次調査は（10代を

除くと) P と C の中間になる。つまり第 1 次調査の C (現在の愛知教育大学生) の値を基準にすると、丁寧さは大きくなる一方ということになる。

### 場面別の絶対年代移動法グラフの見方

図 3~4 では、場面ごとに絶対年代移動法のグラフを示した。11 場面を第 1 次調査の平均使用数の順に並べて、3 回の調査の結果を示した(第 1 回調査の調査者による違いの P と C も分けた。

場面により「丁寧さ」の程度は違う。また増加を示す図と減少を示す図とがある。増加を示す図としては、図 3-2 傘忘れ、図 3-4 荷物預け、図 3-6 議事堂、図 4-3 新聞代、図 4-4 おつり、図 4-5 道教えがあり、減少を示す図としては、図 3-1 医者、図 3-3 振込用紙、図 3-5 席譲られ、図 4-1 先生、図 4-2 傘貸しがある。

説明原理としてや、依頼か、心理的優位に立つかが、作用するようである。

1940 年代生まれの動きをみると、成人後習得が際立つ場面は、図 3-1 医者、図 3-2 傘忘れ、図 3-4 荷物預け、図 3-6 議事堂、図 4-4 おつり、図 4-5 道教えで、(医者を除くと)増加を示す図と一致する。他の項目は 3 回の 4 本の線がほぼ重なる。図 3-2 傘忘れは、全体としては丁寧さが低くなっているのに成人後習得が際立つ。

この背景として考慮すべき現象に調査用挿し絵の変化がある。半世紀前と服装などが違うからというので、全部の挿し絵を描き直した。メンバーの一人が唱えた「何も足さない 何も引かない」という標語は、守られなかった。以上の変化に挿し絵がどれほど影響したかは、判定が難しい。

しかし図 3~4 を詳細に見れば分かるとおおり、ほぼすべての場面(反応文)で「丁寧さ」は一定の変化を示す。永い歴史的变化過程の中に位置付けて、考えるべきだろう。

第 2 次調査の報告書では、約 20 年の変化についての記述の歯切れが悪いが、このグラフによれば、仕方がない。半世紀以上という長いタイムスパンをおいてはじめて、変化の趨勢をつかめたことになる。敬語は一般に変化しやすく、そのためにことばの「乱れ」論議の対象になりやすいが、場面別の用法まで考えると、大量調査によっても、確定しにくい現象があると分かった。第 1 次、第 2 次の調査法に、何か違いがあった可能性がある。

### 性別・学歴別の散布図の見方

図 5 以下では、性別・学歴別にグラフを示した。女性の丁寧度が高いこと、高学歴の丁寧度が高いことが、くつきりと示された。11 場面を個々に考察することもできる。詳しい考察はのちに加える。

## 今後の分析手順

その後他の着眼点からの分析が、高山林太郎・柳村裕・丁美貞などの手で進行中である。またカタカナで記録された反応文を漢字かなまじりに直す作業も鎌水兼貴・藏屋伸子などの手で行われており、これを形態素解析ソフト「メカブ MeCab」で分析しようと試みている。

岡崎敬語調査については、全項目を一連の談話データと見なして、総合的な観点からの分析を進める予定である。回答文をかな漢字交じり表記に変えた上で形態素解析をほどこし、各種の多変量解析を適用し、これまでの報告書での個別的な分析を超越できる成果報告を目指す。成果は逐次、口頭発表、学術論文、啓蒙論文で公表する。また海外の研究者・日本語教師向けの講演と特別授業でも言及する。また資料集などを逐次インターネットで公開し、他の研究者にも分析を呼びかける。

岡崎調査の全体については、国立国語研究所（1983、2010）などを参照されたい。インターネットでも見られる。

## 参考文献

井上史雄（2012.9）「岡崎敬語の現代史」日本語学 31-11 pp. 2-13

井上史雄（2012.12）「日本語敬語の変化とアジアの敬語」三宅和子・野田尚史・生越直樹（編）『「配慮」はどのように示されるか』ひつじ書房。

Inoue, Fumio (2013.4.2) "A Contemporary History of Okazaki Honorifics — Democratization and te- itadaku —"

<http://www.ninjal.ac.jp/socioling/nwavap02/Inoue-NWAVAP2-2013.pdf> pp.1-9  
("Working Papers from NWAV Asia-Pacific 2 ")

井上史雄（2013.11）『岡崎敬語調査資料集 1』 Material for Okazaki Survey of Honorifics, 岡崎「ていただく」の増加 Increase of “te itadaku” in Okazaki 国立国語研究所 National Institute for Japanese Language and Linguistics

井上史雄・松田謙次郎・金順任（2012.11）「岡崎 100 年間の「ていただく」増加傾向—受惠表現にみる敬語の民主化—」国立国語研究所論集第 4 号 pp. 1-25

尾崎喜光（2013）「“道理に合わない” 授受表現の使用と動態—愛知県岡崎市での経年調査および最近の言語調査から—」相沢正夫編『現代日本語の動態研究』おうふう, pp104-126

国立国語研究所（1958）『敬語と敬語意識』秀英出版。

国立国語研究所（1983）『敬語と敬語意識 — 岡崎における 20 年前との比較 —』三省堂。

国立国語研究所（2010）『敬語と敬語意識—愛知県岡崎市における第三次調査

一』科学研究費補助金研究成果報告書 第1～4分冊.

辻加代子(予定)「岡崎市方言敬語伝統形式および新形式ミエルの消長—継続サンプルの分析より—」『国立国語研究所論集』第7号

原田幸一(2013)「テイタダク使用に関わる要因とその予測—岡崎敬語調査12場面の分析—」日本方言研究会第96回研究発表会原稿集

Matsuda, Kenjiro (2012) What happened to the honorifics in a local Japanese dialect in 55 years: A report from the Okazaki Survey on Honorifics, *University of Pennsylvania Working Papers in Linguistics* 18-2

松田謙次郎(予定)「形態素解析の大規模言語調査データへの応用—岡崎敬語調査パネルデータにおける名詞・代名詞・動詞の相対頻度に対する話者性別効果の検証—」『国立国語研究所論集』第7号

松田謙次郎・阿部貴人・辻加代子・西尾純二(2012)「岡崎敬語調査報告—継続サンプルの分析—」日本語学会2012年度春季大会予稿集 pp. 37-54.

岡崎敬語調査資料集 2

Material for Okazaki Survey of Honorifics

## 岡崎敬語「丁寧さ」の変化

### Change of “politeness level” in Okazaki

日本語の大規模経年調査に関する総合的研究

Comprehensive Research

Based on Large-Scale, Long-Term Studies of Japanese

著： 井上史雄 ・ 松田謙次郎 ・ 柳村裕

INOUE Fumio, MATSUDA Kenjiro, YANAGIMURA Yuu

発行： 平成26年1月 January 2014

国立国語研究所

National Institute for Japanese Language and Linguistics



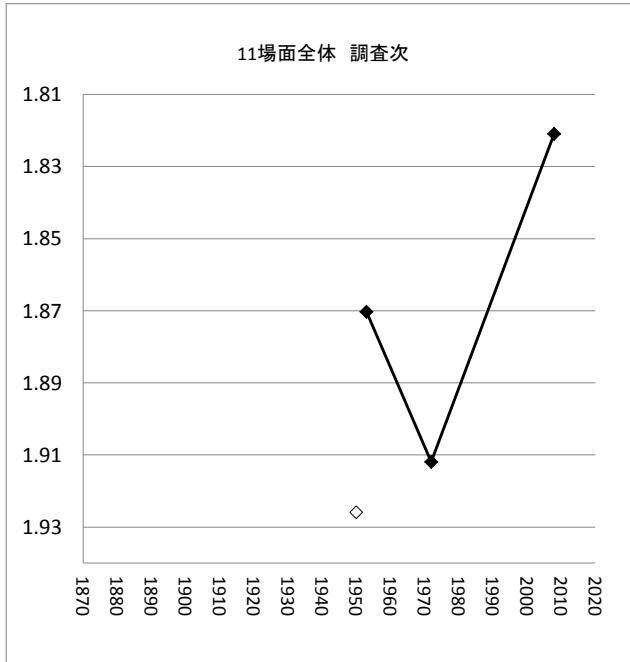


図1-1 11場面全体 調査次 (◆: プロパー、◇: コントロール)  
Figure 1-1 In all the 11 contexts, by year of survey (◆: proper or professional ◇: control or college)

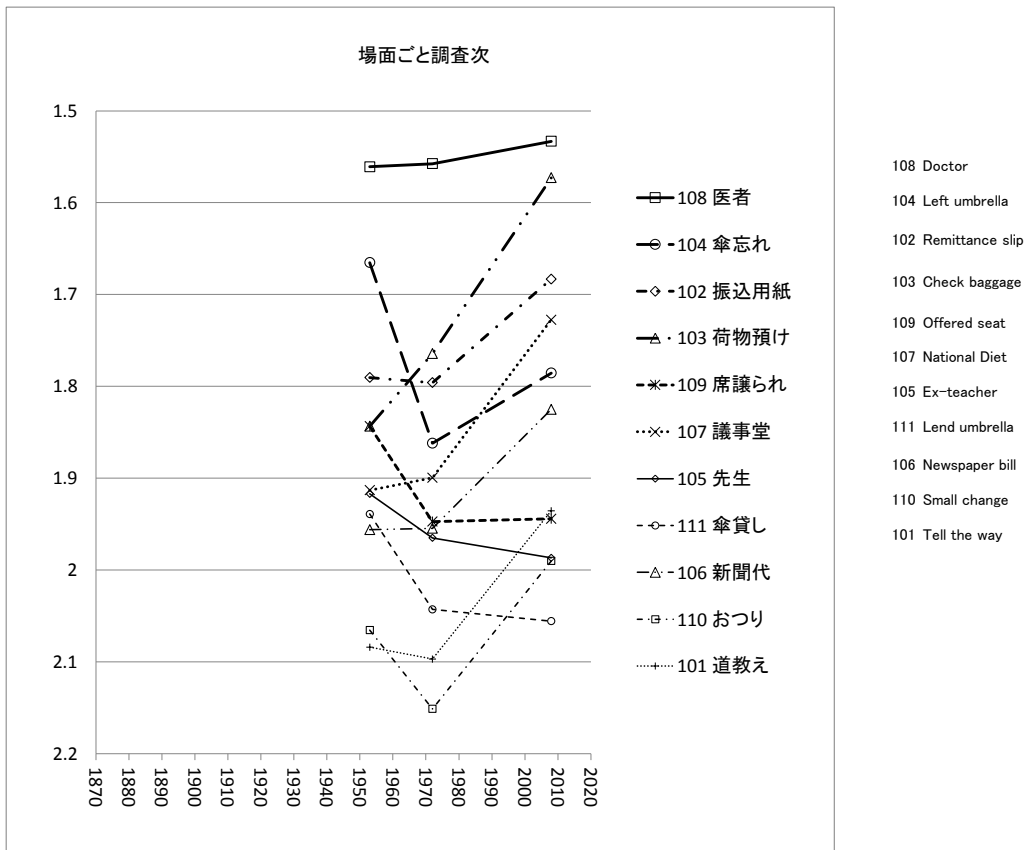


図1-2 場面ごと調査次 (プロパーのみ)  
Figure 1-2 In each context, by year of survey (proper or professional only)

岡崎敬語調査 丁寧さ平均値 11場面全体調査次ごと年代

Okazaki Survey on Honorifics Average of politeness

11場面: 101道教え~111傘貸し

年代: 1次10代~50代、2次&3次10代~70代

All the 11 contexts by generations of three surveys

11 contexts: 101 Tell the way --- 111 Lend umbrella

Generations: first survey 10's - 50's; second and third surveys 10's - 70's

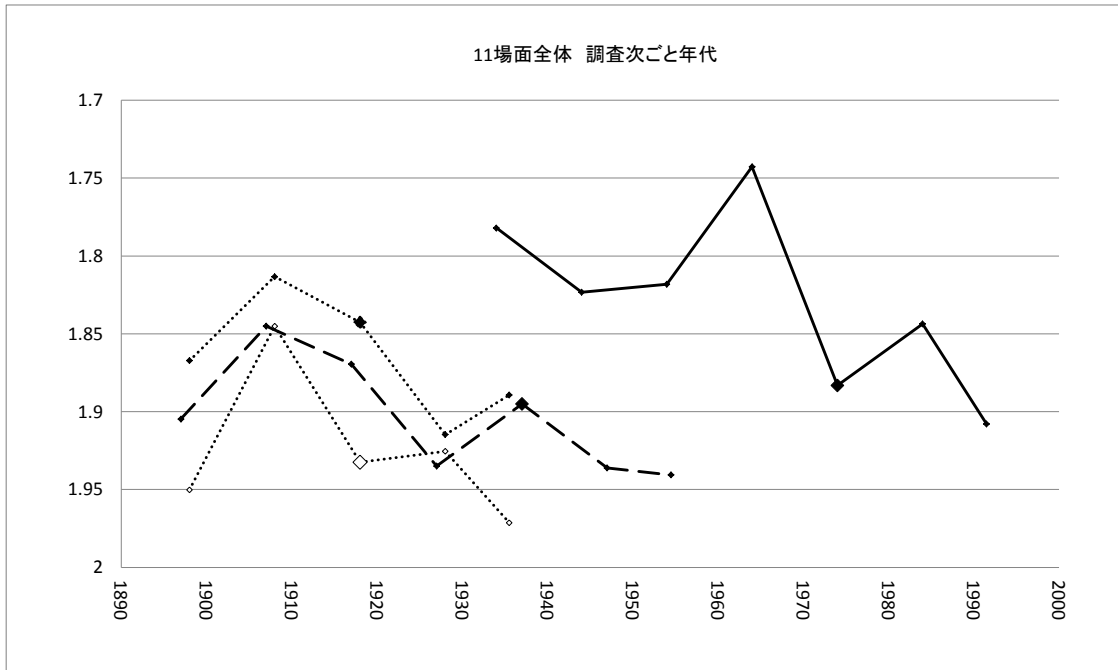


図2-1 11場面全体 調査次ごと年代 (◆: プロパー、◇: コントロール)

Figure 2-1 All the 11 contexts, generations of three surveys (◆: proper or professional ◇: control or college)

岡崎敬語調査 丁寧さ平均値の散布図 場面ごと調査次(プロパーのみ)

Okazaki Survey on Honorifics Scattergram of average of politeness

In each context, by year of survey (proper or professional only)

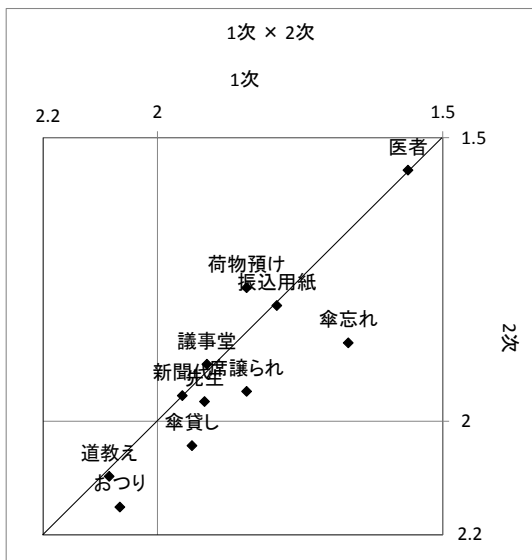


図2-2 場面ごと1次×2次 (プロパーのみ)

Figure 2-2 2nd against 1st survey, in each context (proper or professional only)

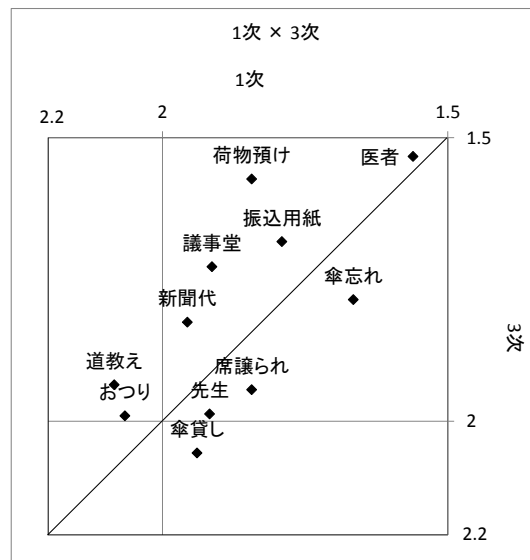


図2-3 場面ごと1次×3次 (プロパーのみ)

Figure 2-3 3rd against 1st survey, in each context (proper or professional only)

岡崎敬語調査 丁寧さ平均値 場面別調査次ごと年代

Okazaki Survey on Honorifics Average of politeness In each context, by generations, year of survey

場面：縦に第1次丁寧さ順 Context: Figure No. is given in order of the average politeness in the first survey.

年代：1次10代～50代、2次&3次10代～70代

Generations: first survey 10's - 50's; second and third surveys 10's - 70's

◆：プロパー、◇：コントロール  
 (◆: proper or professional ◇: control or college)

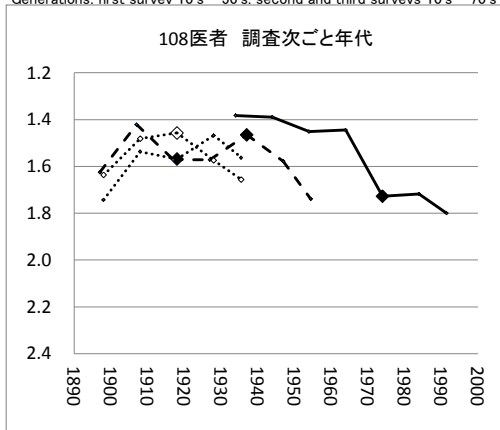


図3-1 In 108 Doctor, by year of survey, generations

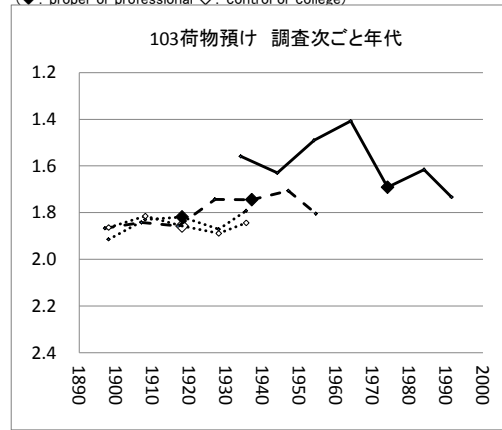


図3-4 In 103 Check baggage, by year of survey, generations

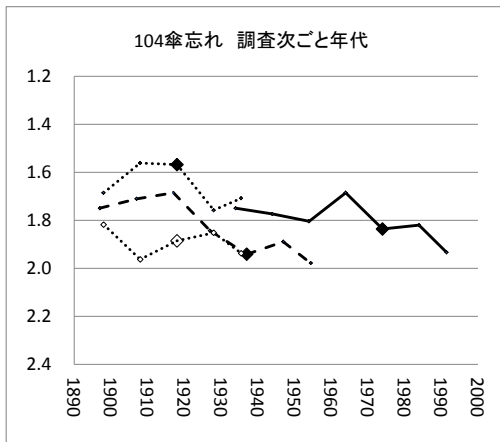


図3-2 In 104 Left umbrella, by year of survey, generations

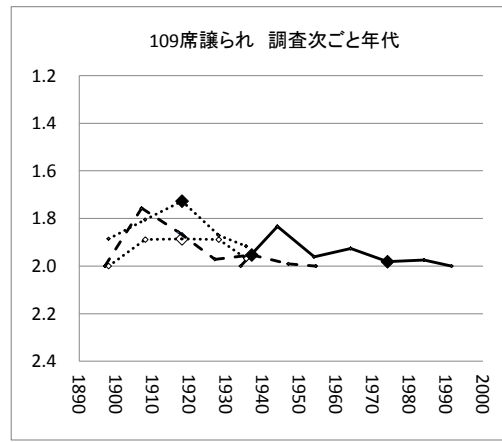


図3-5 In 109 Offered seat, by year of survey, generations

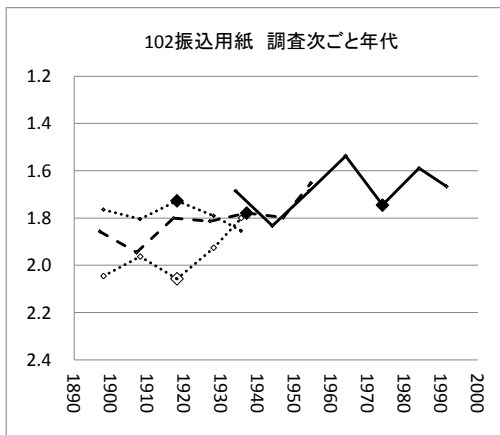


図3-3 In 102 Remittance slip, by year of survey, generations

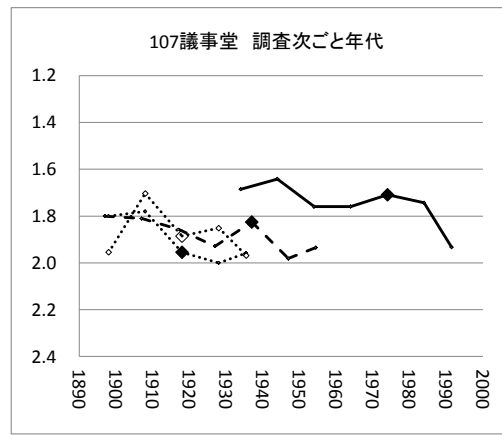


図3-6 In 107 National Diet, by year of survey, generations

岡崎敬語調査 丁寧さ平均値 場面別調査次ごと年代 (続き)

Okazaki Survey on Honorifics Average of politeness In each context, by generations, year of survey (continued)

場面: 縦に第1次丁寧さ順 Context: Figure No. is given in order of the average politeness in the first survey.

年代: 1次10代~50代、2次&3次10代~70代

◆: プロパー、◇: コントロール

Generations: first survey 10's - 50's; second and third surveys 10's - 70's (◆: proper or professional ◇: control or college)

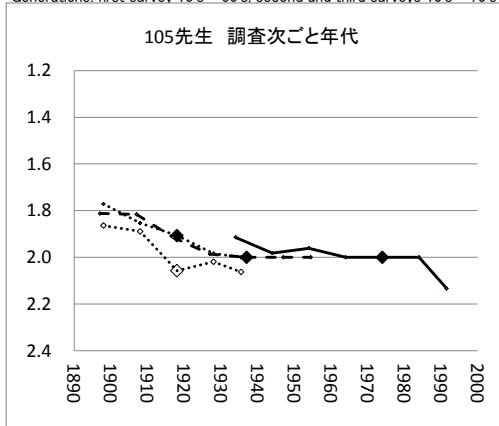


図4-1 105先生 調査次ごと年代  
Figure 4-1 In 105 Ex-teacher, by year of survey, generations

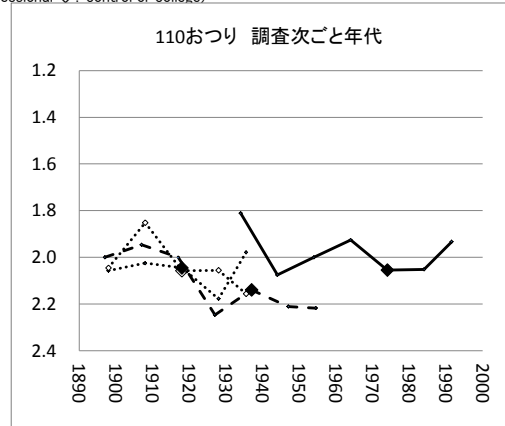


図4-4 110おつり 調査次ごと年代  
Figure 4-4 In 110 Small change, by year of survey, generations

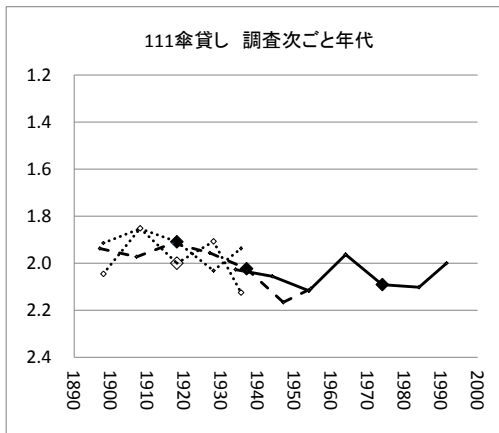


図4-2 111傘貸し 調査次ごと年代  
Figure 4-2 In 111 Lend umbrella, by year of survey, generations

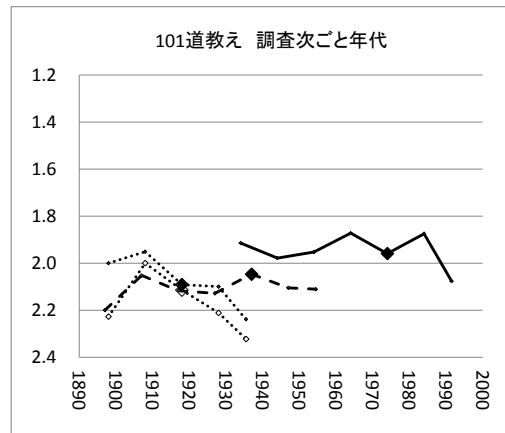


図4-5 101道教え 調査次ごと年代  
Figure 4-5 In 101 Tell the way, by year of survey, generations

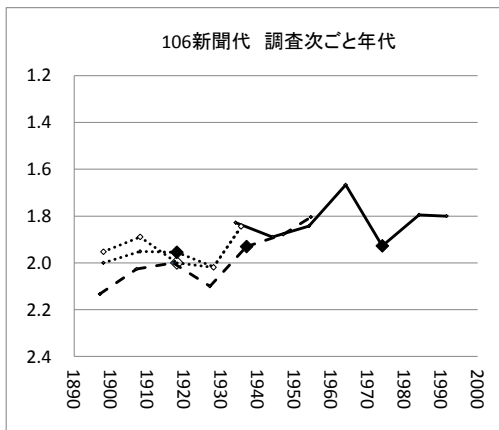


図4-3 106新聞代 調査次ごと年代  
Figure 4-3 In 106 Newspaper bill, by year of survey, generations

岡崎敬語調査 丁寧さ平均値とその散布図  
Okazaki Survey on Honorifics Scattergram of average of pliteness

11場面全体 性別ごと調査次  
All the 11 contexts, by gender, year of survey  
11場面: 101道教え~111傘貸し  
11 contexts: 101 Tell the way ~ 111 Lend umbrella  
◆: プロパー、◇: コントロール  
◆: proper or professional ◇: control or college

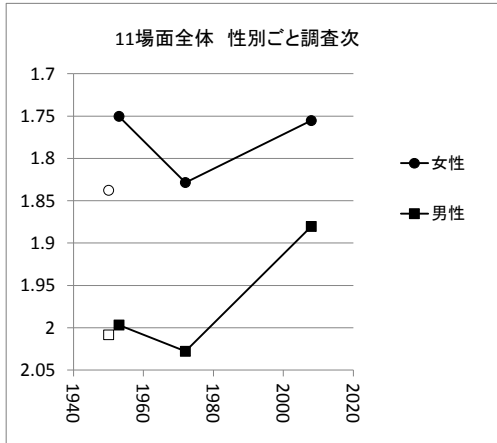


図5-1 11場面全体 性別ごと調査次  
Figure 5-1 In all the contexts, by gender, year of survey

調査次別 場面ごと性別(プロパーのみ)  
By year of survey, in each context, by gender (proper or professional only)

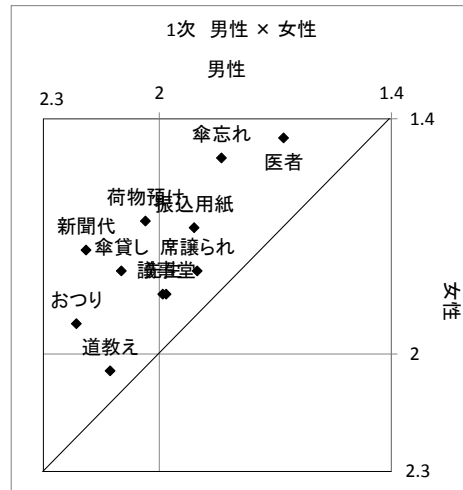


図5-2 1次 場面ごと男性×女性 (プロパーのみ)  
Figure 5-2 1st survey, in each context, female against male (proper or professional only)

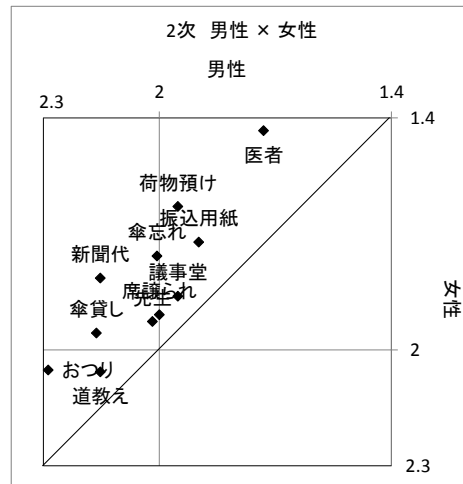


図5-3 2次 場面ごと男性×女性 (プロパーのみ)  
Figure 5-3 2nd survey, in each context, female against male (proper or professional only)

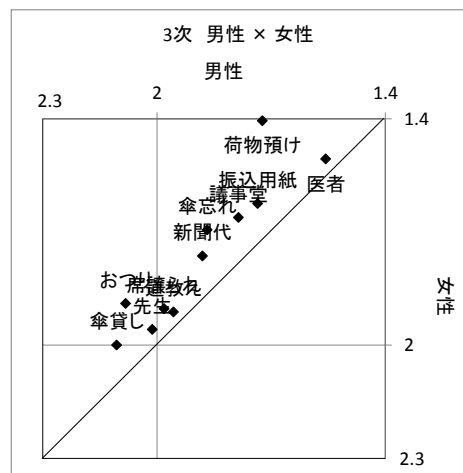


図5-4 3次 場面ごと男性×女性 (プロパーのみ)  
Figure 5-4 3rd survey, in each context, female against male (proper or professional only)

岡崎敬語調査 丁寧さ平均値の散布図 男女別 場面ごと調査次(プロパーのみ)

Okazaki Survey on Honorifics Scattergram of average of politeness By gender, in each context, by year of survey (proper or professional only)

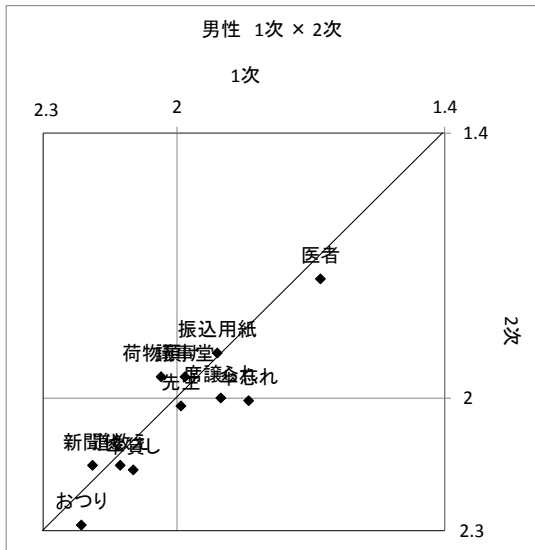


図6-1 男性 場面ごと1次×2次 (プロパーのみ)  
Figure 6-1 Male, 2nd against 1st survey, in each context (proper or professional only)

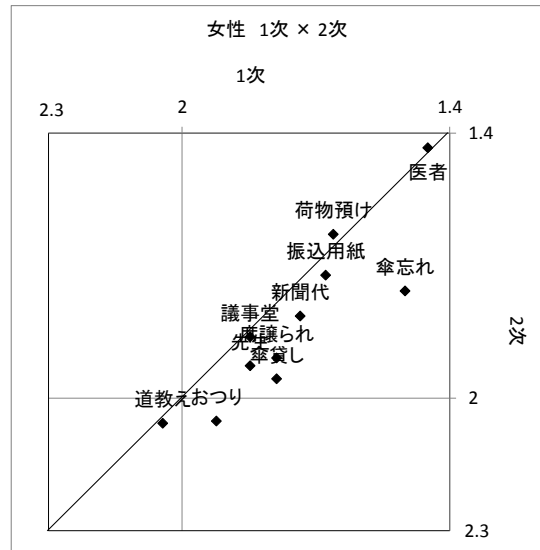


図6-2 女性 場面ごと1次×2次 (プロパーのみ)  
Figure 6-2 Female, 2nd against 1st survey, in each context (proper or professional only)

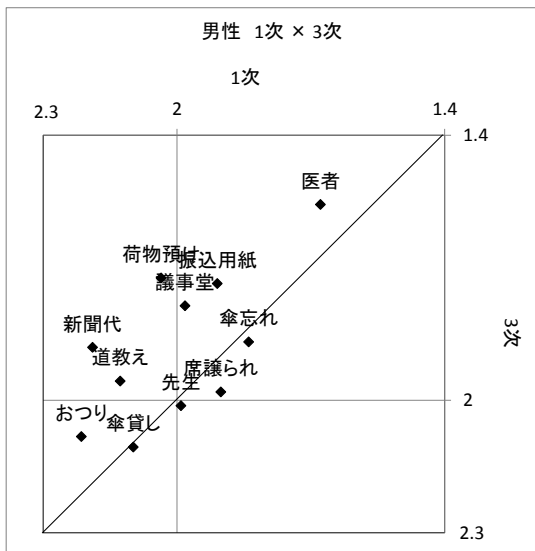


図6-3 男性 場面ごと1次×3次 (プロパーのみ)  
Figure 6-3 Male, 3rd against 1st survey, in each context (proper or professional only)

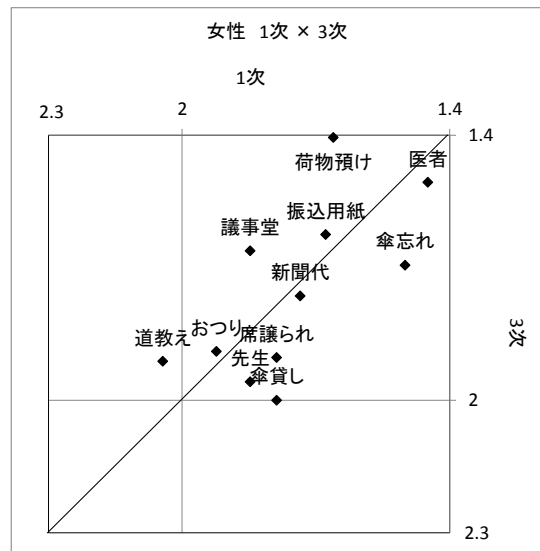


図6-4 女性 場面ごと1次×3次 (プロパーのみ)  
Figure 6-4 Female, 3rd against 1st survey, in each context (proper or professional only)

岡崎敬語調査 丁寧さ平均値  
Okazaki Survey on Honorifics Average of politeness

◆: プロパー、◇: コントロール  
◆: proper or professional ◇: control or college

11場面全体 学歴ごと調査次  
All the 11 contexts, by academic background, year of survey  
11場面: 101道教え~111傘貸し  
11 contexts: 101 Tell the way --- 111 Lend umbrella

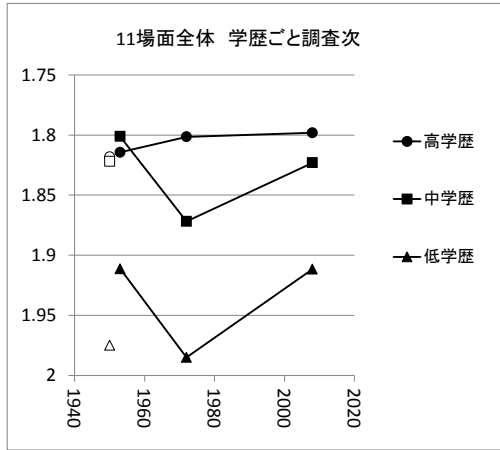


図7-1 11場面全体 学歴ごと調査次  
Figure 7-1 In all the contexts, by academic background, year of survey

学歴別調査次ごと年代  
By academic background, generations, year of survey  
年代: 1次10代~50代、2次&3次10代~70代  
Generations: first survey 10's - 50's; second and third surveys 10's - 70's

無回答 No response  
高学歴: 1次P10代、1次C10代  
High education: 1st, proper, 10's and 1st, control, 10's  
中学歴: 2次70代 Middle education: 2nd, 70's  
低学歴: 3次20代、3次40代 Low education: 3rd, 20's and 3rd, 40's

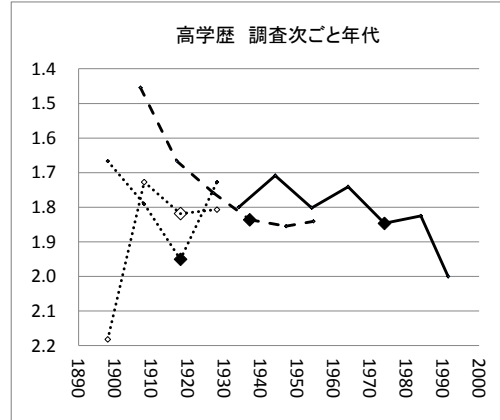


図7-2 高学歴 調査次ごと年代  
Figure 7-2 High education, by year of survey, generations

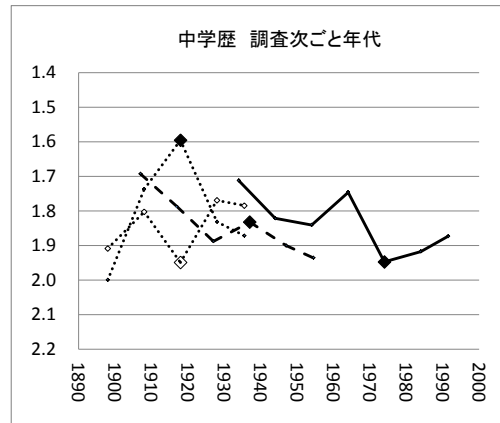


図7-3 中学歴 調査次ごと年代  
Figure 7-3 Middle education, by year of survey, generations

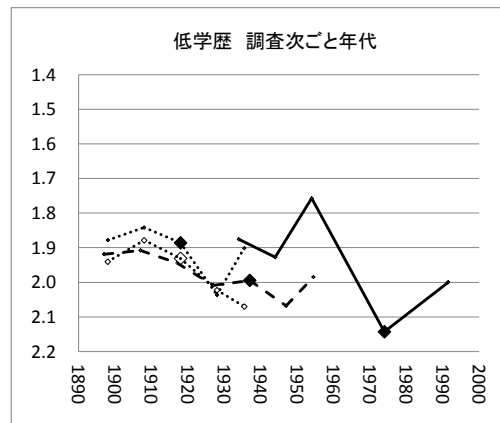


図7-4 低学歴 調査次ごと年代  
Figure 7-4 Low education, by year of survey, generations

岡崎敬語調査 丁寧さ平均値の散布図 調査次別 場面ごとと学歴(プロパーのみ)

Okazaki Survey on Honorifics Scattergram of average of politeness

By year of survey, in each context, by academic background (proper or professional only)

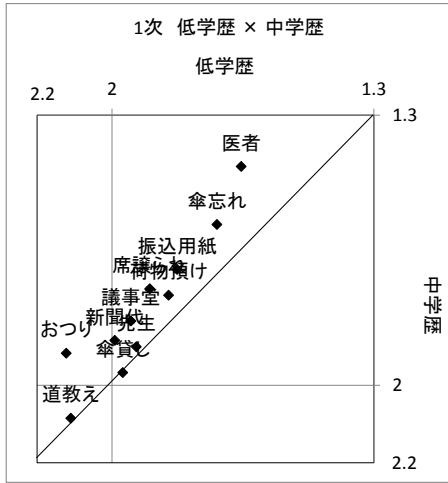


図8-1 1次 場面ごとと低学歴 × 中学歴 (プロパーのみ)

Figure 8-1 1st survey, in each context, middle against low education (proper or professional only)

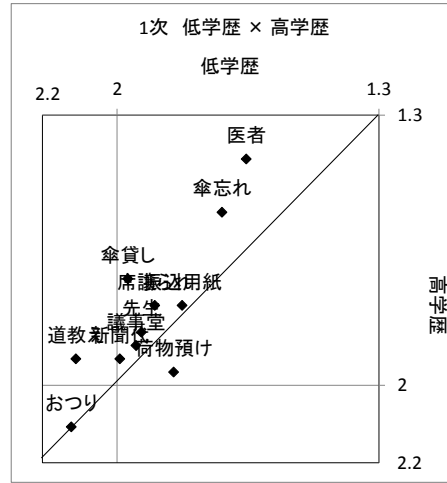


図8-2 1次 場面ごとと低学歴 × 高学歴 (プロパーのみ)

Figure 8-2 1st survey, in each context, high against low education (proper or professional only)

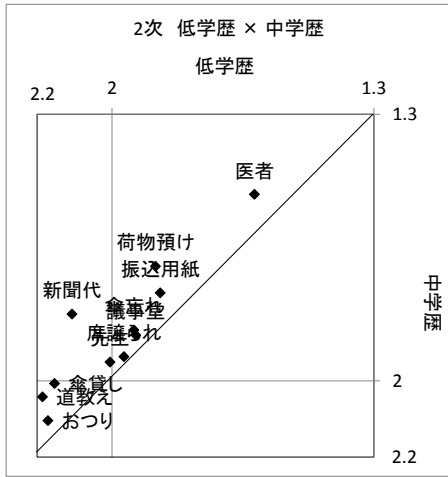


図8-3 2次 場面ごとと低学歴 × 中学歴 (プロパーのみ)

Figure 8-3 2nd survey, in each context, middle against low education (proper or professional only)

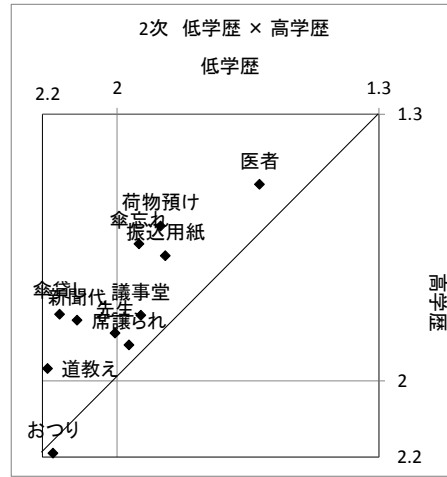


図8-4 2次 場面ごとと低学歴 × 高学歴 (プロパーのみ)

Figure 8-4 2nd survey, in each context, high against low education (proper or professional only)

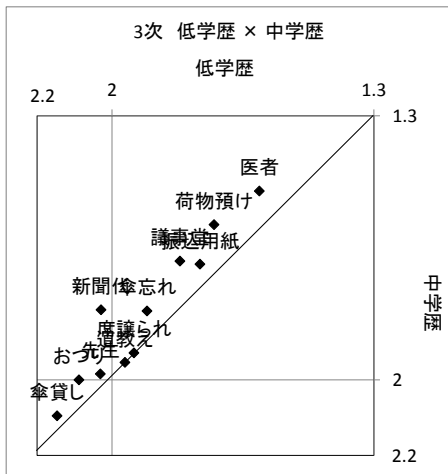


図8-5 3次 場面ごとと低学歴 × 中学歴 (プロパーのみ)

Figure 8-5 3rd survey, in each context, middle against low education (proper or professional only)

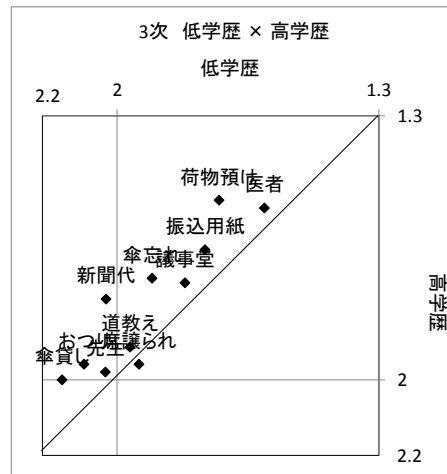


図8-6 3次 場面ごとと低学歴 × 高学歴 (プロパーのみ)

Figure 8-6 3rd survey, in each context, high against low education (proper or professional only)



岡崎敬語調査 丁寧さ平均値の散布図 調査次別 場面ごとと学歴(プロパーのみ)(続き)

Okazaki Survey on Honorifics Scattergram of average of politeness

By year of survey, in each context, by academic background (proper or professional only) (continued)

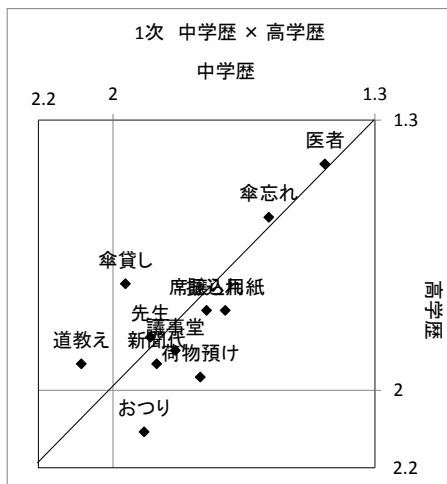


図9-1 1次 場面ごとと中学歴×高学歴 (プロパーのみ)

Figure 9-1 1st survey, in each context,

high against middle education (proper or professional only)

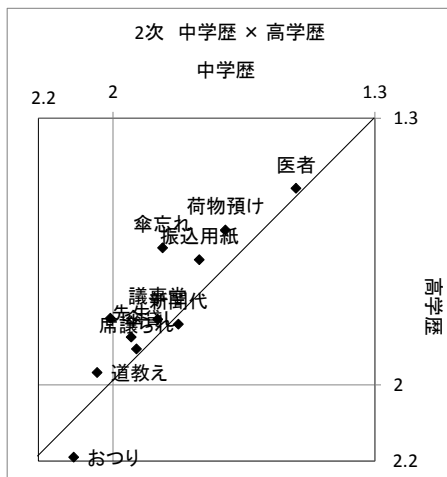


図9-2 2次 場面ごとと中学歴×高学歴 (プロパーのみ)

Figure 9-2 2nd survey, in each context,

high against middle education (proper or professional only)

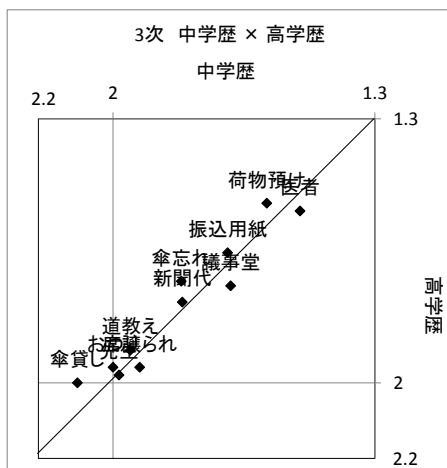


図9-3 3次 場面ごとと中学歴×高学歴 (プロパーのみ)

Figure 9-3 3rd survey, in each context,

high against middle education (proper or professional only)